

Last! day 3 2018. 1/28日

新・空き家論は、大牟田市の「明治校区」、「大牟田中央校区」、「天の原校区」、「大牟田市動物園」のチームに分かれて、2017年6月25日のday1、9月23日のday2を通し、まちの課題の抽出と議論を重ねてきました。
そして、2018年1月28日にその集大成となる『まちの課題解決アイデアコンテスト』day3を開催しました！



審査委員紹介

株式会社YOUI
代表取締役社長
原口 唯 氏

2011年に九州大学芸術工学府デザインストラテジー専攻修了後、都市開発コンサルティング会社・自治体シンクタンクを経て、2017年に株式会社YOUIを設立。多様な主体の働きかけによるプロジェクトのデザインとマネジメントを通じて、人間と都市の魅力が最大化されることを目標に活動。福岡地域戦略推進協議会シニアマネージャー、認定NPO法人エデュケーションエキューブ社会的インパクト評価担当理事、九州大学地域政策デザイナー養成講座ディレクターを務める。

株式会社リ・パブリック
共同代表
田村 大 氏

東京大学i.school共同創設者エグゼクティブ・フェロー。
2005年、東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。博報堂にてグローバル・デザインリサーチのプロジェクト等を開拓・推進した後、独立。人類学的視点から新たなビジネス機会を導く「ビジネス・エスノグラフィ」のバイオニアとして知られ、現在は福岡を拠点に、世界の産官学を結んだイノベーション創出のネットワーク形成とその活用に関与。

<http://www.kidnext.design.kyushu-u.ac.jp/k2/>

有明専造造工学科
建築コース助教
正木 哲 氏

2016年4月より有明工業高等専門学校創造工学科建築コース助教。専門は建築計画学。日本建築学会会員。現在、大牟田市空き家及び空家等対策審議会副会長、荒尾市空家等対策審議会会長を務め、地域の空き家に関する政策に携わる。また、空き家を改修し平成29年4月に地域交流拠点施設としてオープンした「みんなの家リクス」(大牟田市)の運営委員会委員。

<https://masakilab.tumblr.com/>

大牟田商工会議所
街なか再生マネージャー
星見 和男 氏

広告代理店勤務後、販売促進アドバイザーとして独立。東京都商工会連合会エキスパート登録後、多摩地域の商工会・商店街等の講演会や地域振興政策の企画提案をする。また、八王子市を中心に空き店舗対策事業、共通駐車券事業、商店会・個店支援事業、イベントコーディネート等を実施。
平成29年11月より大牟田商工会議所「街なか再生マネージャー」として就任し、中心市街地の活性化に向けて空き店舗の解消にむかひの創出などに取り組む。



新・空き家論の内容は「Hilab.design」のWEBサイトからもご確認できます！

<https://www.hilab.design/>

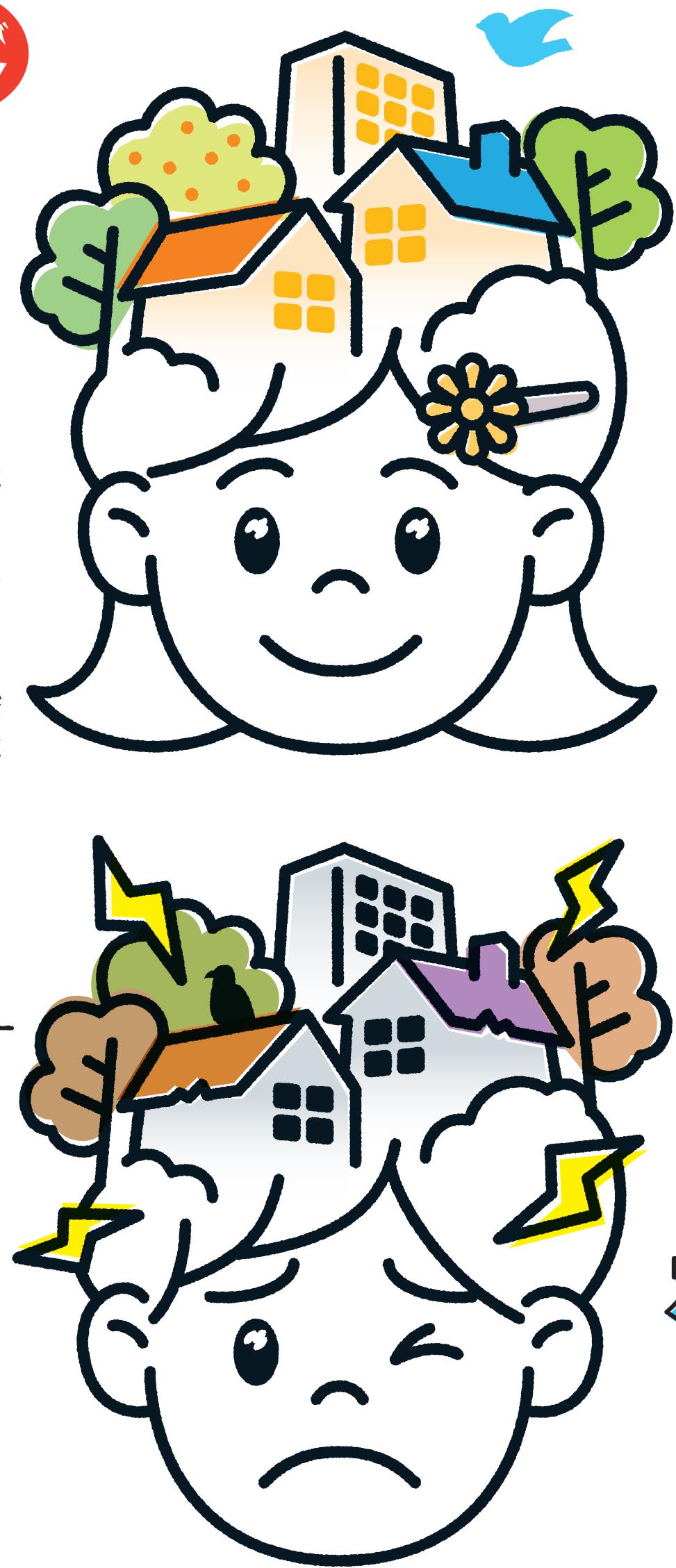


新・空き家論

学生が考える！

大牟田市制100周年記念事業 / まちの課題解決事業

若者が解決し、描くこれからの百年



アイデアコンテストレポート

まちの課題解決

市内外の若者がこれまでの100年を地元の市民(産学官民)と振り返りながら、まちの課題の抽出と、課題解決へ向けての議論を2日に分けて行ってきました。そして、今後100年に向けて持続可能なアイデアを考える2023を開催。そこで出たアイデアを一冊のレポートにまとめました！

KOUSEN HOUSE

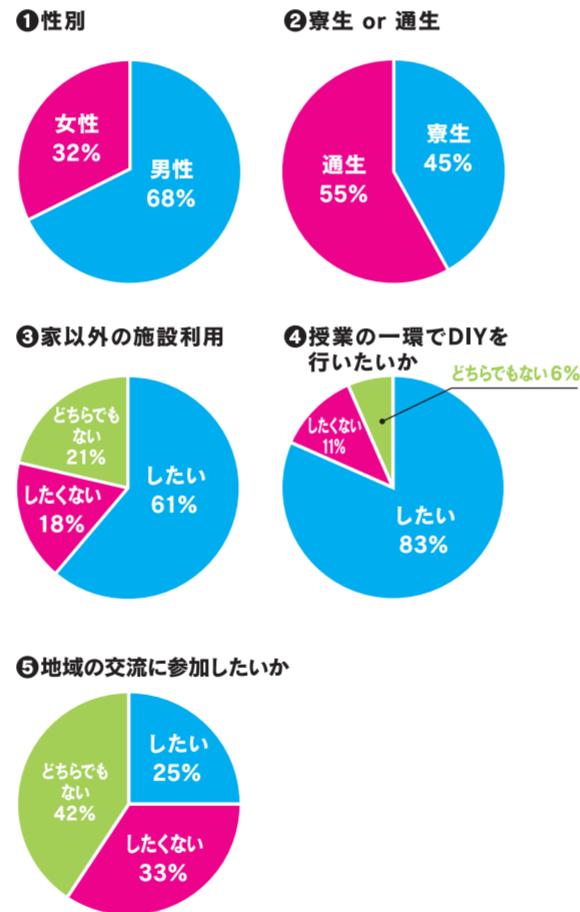


○ 久留米大学_国武 優作 / 小泉 伸介 / 深山 新介 ○ 有明工業高等専門学校_宮本 嶺士 / 本梅 伍乃

天の原校区の概要

大牟田市の南に位置し熊本県の荒尾市に接している。人口は約5400人、高齢化率は37%の地区である。大牟田市の高齢化率が35%のため大牟田市の中でも高齢化が進んでいる地域と言える。地区内には保育園、小学校、有明高専、病院、老人ホームなどの福祉施設がある。私たちは、天の原校区がどのような場所なのか調査するために「高専生へのアンケート」「市役所、天の原地区の方への電話取材」「現地調査」を行った。

「高専生のアンケート」では事前調査で分かった、「4年生以降はほとんどの学生が寮を出ないといけない」「天の原校区に住んでいるものの地域内での交流がない」ということをもとに以下の質問を100人の学生を対象に行った。①性別、②寮生か通学生か、③空き家をシェアハウスなどに利用したいか、④授業の一環でDIYを行いたいか、⑤地域の交流に参加したいか。その結果が以下のグラフである。このグラフからは、「高専生向けのシェアハウス」は必要があるのではないかと思う。また、授業の一環でシェアハウスを作るというのも良いのではないかと思う。



調査報告

このグラフからは、「高専生向けのシェアハウス」は必要があるのではないかと思う。また、授業の一環でシェアハウスを作るというのも良いのではないかと思う。

「市役所、天の原地区の方への電話取材」では、大牟田市役所建築住宅課の方と天の原まちづくり協議会の会長にお話を伺った。大牟田市役所の方の話では「天の原校区内で利用できる空き家はあるか」という問いに対し「空き家のある場所は把握しているが、利用できるかはわからない」という返答であった。また、「空き家の活用について、予算はどのくらいあるのか」に対し「今のところ、予算はない」ということだった。(2017.10.9時点)

まちづくり協議会会長の話では「校区内に空き家はどのくらいあるのか。また、活用できるか」という問いに対し「約70軒で、ほとんどが活用できる」という返答であった。「校区内の人たちは空き家についてどう思っているか」という問いに対しては「火災、崩壊、植木などの危険被害がでる。空き家を活用してくれると町内が明るくなり、若者が増える

機会になるのでは」という返答であった。また、「空き家を高専生向けの施設として利用できないか」と考えているが、どう思うか」に対し「利用していただけるなら、可能である」ということだった。さらに、「校区内での交流は行われているか」に対しては「多目的なところでは月に1回交流が行われている」ということであった。

「現地調査」では、天の原校区内にある大牟田市消防本部勝立出張所を出発地点とし、最初に天の原小学校へ向かった。その次に南大牟田病院方面。次に、有明高専の寮と学校へ向かい、その後、出発地点の勝立出張所へ戻った。勝立出張所付近では、車通りも多くスーパーや飲食店などの店舗もあり活気があるように感じた。天の原小付近では住宅街が広がっており、近くには保育園もあった。南大牟田病院付近では、人通りも少なく、畑や空き地が多くみられ、空き家のような建物もいくつか確認できた。有明高専付近では、勝立出張所付近とは雰囲気は異なり住居も少なく閑散としていた。歩いた中で一番空き家のような建物が多かったのは、このエリアである。

調査から見た課題

市役所の方への取材の中で「どこに空き家があるかは、個人情報のため教えられない」という返答があった。このように空き家があることはわかったが、所有者問題などにより実際に活用できる空き家を見つけることは簡単ではないということがわかった。また、現地調査を行う中で天の原校区と

いつでも場所によりまちの雰囲気は異なり、空き家の数も全く違って行くのではないかと考えた。特に南北を見た時に、勝立出張所のある北側は少なく、有明高専のある南側に多くあるのではないかと感じた。さらに高専生の意見を聞く中で高専生と地域住民の意見が少ないという声を聞いた。せっかく若者が天の原校区に多く集まっているのに、地域と学生の交流が少ないのはもったいないような気がした。



そもそも何が問題なのか？

校区内の空き家が増えていっていること。また、高専生の目線になって考えれば、学校の近くにアパートが少ないということである。

課題を抱える人

私たちは、天の原校区の空き家問題を考える際に一人の男子学生の視点になって考えてみた。この男子学生は、有明高専に通う3年生で4年生になると学生寮を出て一人暮らしをしなければならない。その際学生は、できれば学校から近く家賃も安いほうが良いと考えている。もし、学校から近く家賃も安い高専生向けのシェアハウスにこの男子学生が住めたとしたら、学校生活が充実するだけでなく寮に住んでいるときにはなかった地域の人との交流が生まれ勉強だけでは学べないことがたくさん学べるのではないかと思う。また、少ない家賃で済むことは親にとっても助かるのではないかと思う。

私たちが提案するアイデア

地域の課題である「空き家問題」と高専生の課題である「4年生以降の住む場所」を解決するためのアイデアが「KOUSEN HOUSE」である。「KOUSEN HOUSE」とは天の原校区にある空き家を改装してきた、高専生専用のシェアハウスのことである。その際、地域の方のサポートも必要になる。例えば、空き家の提供や資金面での支援などを行う。また、シェアハウスの一部に作業場を設置する。そこでは、イベントで使用する道具を手作りで製作したり、子どもたちと一緒に工作を行ったり、いつでも自由に製作活動が行えるようにする。

このシェアハウスは、まず高専生が空き家を授業の一環としてDIYするところから始まる。そして、実際に高専生に住んでもらう。住み始めてからは、ルームメイトやそれ以外の高専生、地域住民がそれぞれのニーズに合った活動を行う。例えば、月に1回、バーベキューや鍋パーティーなどの食事会や高専生が地域の小学生に勉強を教える勉強会、季節に合ったイベント(花見、ハロウィン、クリスマスなど)を行う。また、シェアハウスの一部に作業場を設置する。そこでは、イベントで使用する道具を手作りで製作したり、子どもたちと一緒に工作を行ったり、いつでも自由に製作活動が行えるようにする。

シェアハウスに住んでもらう最大のメリットは、家賃・生活費が安く済むということだ。現在、高専生が一人暮らしにかかる費用は家賃が2~3万円、生活費に1~2万円ほどかかっている。家賃・光熱費を折半することや家具・家電を共有できることによって安く抑えられる。

アイデアを実現するために

1

私たちができること

まずは、学生なりにできることを行うことだと思ふ。それは、高専生が持っている能力や知識をいかして、空き家を改装・利用すること。そして地域住民としてそこに住むことだと思ふ。また、学生が地域を変えようと動くことは地域の方々にとってもまちを変える、いいきっかけになるのではないと思ふ。

2

私たちがやりたいこと

空き家をDIYでシェアハウスにし、そこに住む。そして、地域の交流に参加するなど何らかの形で地域に貢献する。将来的には、シェアハウスだけでなく地域の交流の場(サロンなど)に空き家を活用できればと思ふ。

3

私たちがやるべきこと

自由に改装できる空き家を探す。シェアハウスづくり、シェアハウスに住むまでの支援者探し。

このアイデアを実現するためには「有明高専」「地域住民」「空き家の提供者」がカギとなってくる。そして、実現させる一歩目として、「利用できる空き家の調査」から行わなければならない。

おわりに

今回の調査では、事前に提案した「空き家を活用した高専生向けのシェアハウス」を実現するために何が課題なのか調査した。調査をする中で感じたことは、この天の原校区はまだ元気があるということである。現地調査を行う前の話では、「この地域には特に何も無い」と聞いていた。しかし、実際に訪れてみると飲食店、スーパー、ドラッグストアなどのお店、保育園、病院、福祉施設、温泉など様々な施設がありバス

まで通っていた。さらに言えば、三池炭鉱宮原坑など世界遺産でもある。正直な感想を言えば子どもから老人まで暮らせるいい街だなと感じた。とはいえ、空き家が増えていっているのも現状である。

これから、天の原校区がさらに元気のある街になっていくには地域住民と高専生の関係が必ずカギになってくると思ふ。

審査員コメント



空き家を使うよりも、将来空き家になりそうな独居老人の自宅を改装して、新しいタイプの下宿を作ってみてはどうでしょう？ その方がオーナーの得得もしやすいと思ふし、地域との交流が最初からあるのもメリット。



大人の出番かもしれない。高専で空き家を借り上げるとか？あるとすれば賃貸の課題？実現性はかなり高い。むしろできない理由を探すのが難しい。

エコスマールタウン

空き家とソーラーパネルの組み合わせで、新しいライフスタイルを!

○ 久留米大学_藤木 翔太 / 中村 亮太
○ 有明工業高等専門学校_井上 健勝 / 松尾 岳 / 吉井 悠介



天の原校区の概要

- 大牟田市南東部の高台に位置 ○ すぐ近くに荒尾市との市境線
- H25.4 天道小と笹原小が再編され、天の原小が誕生し、天の原校区ができた。
- 有明高専・ひばりヶ丘の化石と萩ノ尾古墳
- オーム乳業・松谷海苔・室町ケミカルなどの工場群
- 早鐘グラウンドと新勝立公園、新名物「満月の湯」
- ミスターマックスなどの店舗

調査報告

- 天の原校区内には京セラTCLソーラー合同会社のパネルが2つある。
- 出力はそれぞれ2.5042MW、2.5025MWである

市内の沿岸部以外で太陽光発電が多く設置してあるのは天の原校区だけであるため、条件のよさを活かし空き家とうまく融合できないだろうか。



Google マップより作成

調査から見た課題

1 天の原校区に13年住んでいる20代の女性へのアンケート

家族構成	父、母、姉、妹
住み始めた理由	高専が近いから
平日の行動パターン	学校
休日の行動パターン	バイト、部活
天の原校区の満足している点	空気がきれい
天の原校区の不満な点	アクセスしにくい
天の原校区の特徴	近隣住民が優しい

- 市内の他の校区との地域差を感じている。
- 状態の良い校区内の空き家を、若い世代にアピールしたら、利用してもらえるのではないか。

2 天の原校区に10年住んでいる10代の女性へのアンケート

家族構成	父、母、弟、弟
平日の行動パターン	学校
休日の行動パターン	バイト
天の原校区の満足している点	高専が近い
天の原校区の不満な点	周りに何も無い
天の原校区の特徴	坂しかない

- 活気がないため、市内の他の校区との地域差を感じている。
- 状態の良い校区内の空き家を、若い世代(主に学生)にアピールしたら、シェアハウスとして利用してもらえるのではないか。

3 天の原校区に49年住んでいる40代の女性へのアンケート

家族構成	夫婦、子供二人
平日の行動パターン	専業主婦のため、主に家事
休日の行動パターン	家族で出かけるなど
天の原校区の満足している点	交通量が多くないので騒がしくない
天の原校区の不満な点	閑散としているので、防犯の面で不安
天の原校区の特徴	高齢者、空き家が多い

- 駅周辺は人や店舗等の密度が高く、市内の他の校区との地域差を感じている。
- 近隣に世界遺産や遊園地があるので観光施設として利用すれば若い世代にもアピールできると思う。

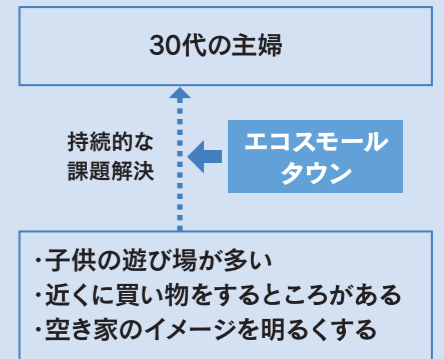
そもそも何が問題なのか?

- 全体的に人が少ない
- 市外へ人が流れてしまっている
- 大牟田市では古い家でも家賃が高いため、空き家になっているところもある
- 郊外のため、交通(バス)の便が悪い
- 自然が多いが、活用できそうな自然はない
- 校区に活気がない
- 交流の場がない

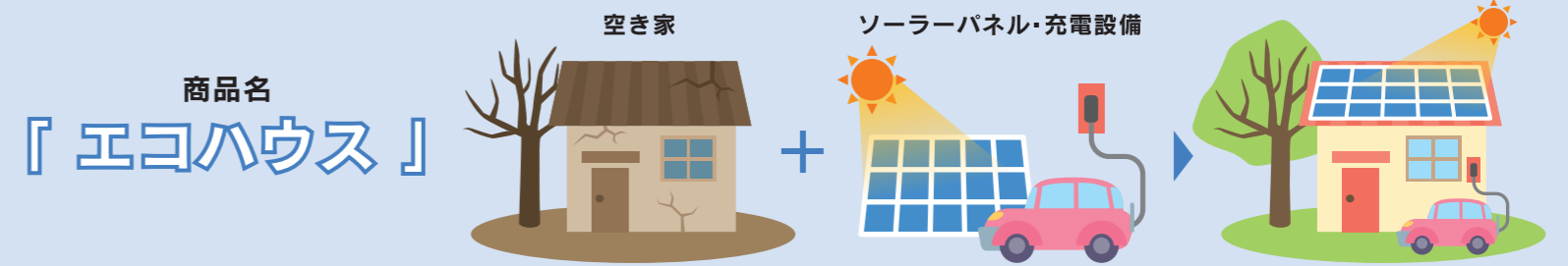
課題を抱える人

- [年齢、性別、家族構成]
課題を抱える人は30代の主婦、家族構成は幼児1人に、旦那がいる。
- [平日、休日の基本的な行動パターン]
平日は仕事、休日は家族で過ごす。買い物は校区外で行う。
- [具体的な悩み、心の痛み]
買い物が大変、子供の遊び場がない。

課題解決イメージ



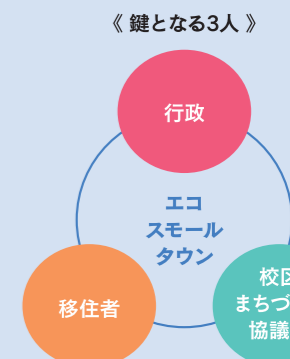
私たちが提案するアイデア



アイデアを実現するために

- 1 私たちができること**
 - 天の原校区のことをアピール
 - 設置費用の負担を減らす方法を考える
 - 優良空き家を探し、確保する
- 2 私たちがやりたいこと**
 - 空き家にソーラーパネルを設置する
 - 空き家に電気自動車の充電設備を設置する

空き家をエコな家に変える!
- 3 私たちがやるべきこと**
 - 行政、移住者、校区まちづくり協議会に話を持ち掛ける
 - 設置費用の確保 (一軒当たり約250万円)



エコスマールタウン実現に一步近づく

アイデアが実現した時の未来の姿

空き家にソーラーパネルを設置し、家の外には電気自動車の充電設備が設置されている。

空き家をエコな家に変えて、エコな車が道路を走っているエコスマールタウンになっている。

アイデアを元の実証実験の可能性

- 案① 公民館や小学校にソーラーパネルと充電設備を設置して、良さを知ってもらう。
- 案② ソーラーパネルに、歩数によって変化する電力を送る機械を、多くの人の靴の裏に付けてもらう。

やれることから実践宣言

まずは

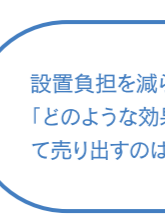
- 天の原校区のことをアピール
- 設置費用の負担を減らす方法を考える
- 優良空き家を探し、確保する
- 行政、移住者、校区まちづくり協議会に話を持ち掛ける

これから実践します!

審査員コメント



新しいライフスタイルを作っていくときの切り口として、面白いアイデアだと思います。「FIT買取価格」を活用した、再生可能エネルギーの売電をエリアとして推進するのもいいかと思います。蓄電池をエリアで共有して、停電時のバックアップインフラにできるといいかも。



設置負担を減らす具体的なアイデアとか? 行政に持ちかける時は、「どのような効果を想定出来るか?」を検討する。「エコシティ」として売り出すのは非常に良い。

保育園

主婦と子どもが住みやすい場所にするために、
まずは育児施設の充実から進める。

明治校区の概要

※平成27年

- 人口:4,914 (男:2,229 女:2,685)
- 世帯数:2,581
- 商店街の衰退 (店舗数130、空き店舗62)

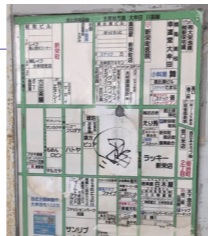
調査報告

- 商店街を訪れる人が少ない
- 空き店舗の多さ
- 店舗の種類の少なさ



調査から見た課題

- 店舗の構成は理容室や婦人服、スナック、雀荘などが多くあったが、シャッターが閉まっている空き店舗の方が目立ち雰囲気も暗く感じた。
- 商店街の店舗の種類のためか、訪れる年齢層は高めで若者が少ない。



インスタマップ

誰もが思わず写真を撮りたくなるように
街に彩りを与え、若者が集い、にぎわう大牟田へ!!

明治校区の概要

- 明治校区の人口は平成29年5月1日現在で、世帯数2,561世帯、人口総数4,912名 (うち男性2,222名、女性2,690名)
- 駅に近く、商店街がある

調査報告

- 休日なのに人通りが少ない
- お店の種類や空いているお店がわからない



調査から見た課題

- ① インスタ映えしない
- ② 商店街の衰退
- ③ どのように周ろうか迷った



そもそも何が問題なのか?

大型ショッピングセンターなどの
商業施設の開業により
商店街への客足の減少

商店街の空き店舗が増えた

訪れる客層に限られる

さらなる商店街の衰退

大型店の状況

(大牟田市: 中心市街地活性化基本計画)



課題解決イメージ



子育て世代が住みやすくなり、
店舗数が増え、活気を取り戻す

課題を抱える人

【年齢、性別、家族構成】 主婦、女性、子ども持ち (保育園児)

【平日、休日の基本的な行動パターン】 家で家事、または仕事、子どもの世話をし、夕食の買い物に出かける。

【具体的な悩み、心の痛み】 子育てできる環境と日常の生活を繋ぎたい。

子育てできる環境と日常の生活を繋ぎたい。

アイデアを実現するために

1

私たちができること

実際に保育園が入れるのか検討
(作るためにはどうすればいいのか)
地域住民との連携を図る

2

私たちがやりたいこと

商店街に保育園をつくる
商店街に店舗が増える
活気を取り戻す

《鍵となる3人》



やれることから実践宣言

まずは

保育園を
入れることができるか

これから実践します!

審査員コメント

商店街を挙げて、内閣府の「企業主導型保育施設」の制度を使って、「商店街が子供を育てる」コンセプトで子育て世代の注目を集めるのはアリかも。



そもそも何が問題なのか?

過疎化 / 少子高齢化 /
商店街の衰退

課題を抱える人

- ・22歳 女性 独身
- ・写真家としての活動

拠点とする場所がない

提案するアイデア

インスタマップ

Instagram

+

地図

課題解決イメージ

課題を抱える人

- ・22歳 女性 独身
- ・写真家としての活動
- ・拠点とする場所がない

持続的な課題解決

← インスタマップ

解決した未来の姿

- ・スタジオを持つ
- ・大牟田から世界へ発信
- ・写真家としてデビュー

アイデアを実現するために

1

私たちができること

インスタマップの
提案

2

私たちがやりたいこと

インスタマップを作り、活用してもらう

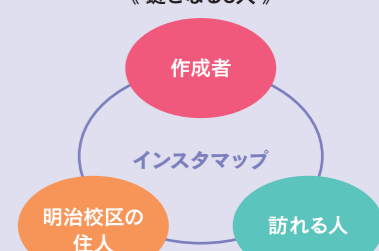
- ・風景写真のコンテストを行い、大賞を決める。
- ・商品の写真と#~を入れて投稿すると割引。
- ・ルートを決めて周りやすくする。

3

私たちがやるべきこと

広め方の提案、
議論をして決める

《鍵となる3人》



アイデアが実現した時の未来の姿

『インスタマップ』
「若者が集いにぎわう大牟田!」

アイデアを元に実証実験の可能性

インスタマップの活用例を元にどのような
影響があるかを観察する。

やれることから実践宣言

まずは

インスタマップを作り、
明治校区の魅力を知る

これから実践します!

審査員コメント

地域との「ふれあい」「知り合いになる」というテーマ・要素を入れることで、リピーターを作ることも賑わいを作ることだと思う。

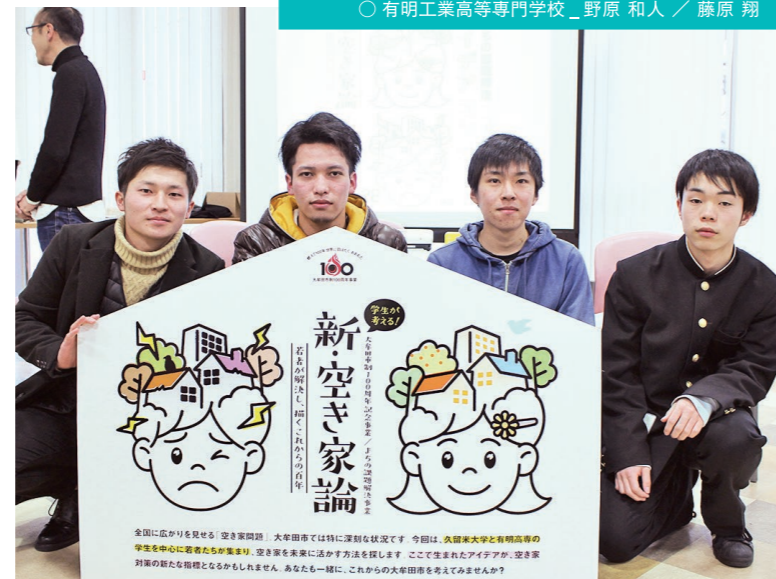


空き家活用で 老化防止

高齢者が作る空間で、元気な町づくりを！

中央校区の概要

- 駅が近い ○ 第2土曜日に子ども食堂
- H28.4「大牟田中央校区まちづくり協議会」設立



○ 久留米大学_坂井 拓也 / 納富 輝
○ 有明工業高等専門学校_野原 和人 / 藤原 翔

調査報告

《くすりの金龍堂》

- 約3年前までは確実に営業していた。
- 店舗内の現状として、物が少し残っていて閑散としている。

※発表終了後、別店舗が入っています。



調査から見た課題

- 通勤通学の時間帯とアイドリングタイムの流動人口の差が激しい
- 空き家なのかそうでないのか区別がつかない建物がいくつかある

駄菓子屋喫茶 TAMARIBA

いろんな世代の人が集まり、一日中にぎわう場所。
こんなたまり場がほしかった。

中央校区の概要

- 空き店舗・空き家が数軒 ○ 飲食店、土産店、コンビニが立ち並ぶ
- 通勤・帰宅時間以外は閑散としている(バス利用のお年寄りがちらほら)



○ 久留米大学_内面 翔太 / 岩原 諒 / 磯道 佑聖
○ 有明工業高等専門学校_蔵本 英祐

調査報告

- 空き店舗数件
- 11月に新しくパン屋が開店
- 人通りがまばら



調査から見た課題

- 駅利用者の少ない時間帯の周辺店舗の利用を考える
- 入りづらい雰囲気(入り口が狭い、中が見えない→人の入りが見えず入りづらい)
- 何の店かわかりづらい店がある

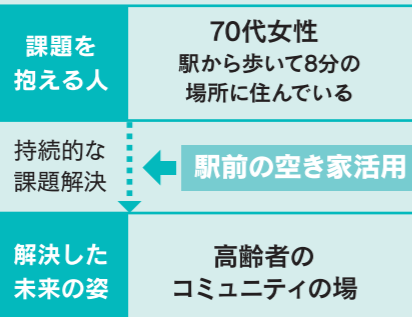
そもそも何が問題なのか？

- ・駅前という好立地にもかかわらず、現在も空き店舗になっている。(地代が年々下がっている)
- ・借りたい人と地主の折り合いがつかない

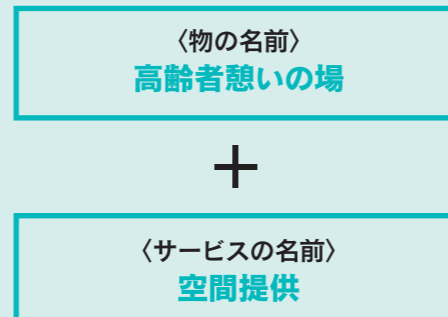
課題を抱える人

地域に住む高齢者

課題解決イメージ



私たちが提案するアイデア



アイデアを実現するために

1

私たちができること

- ・空き家をDIYによるリノベーション
- ・高齢者への呼びかけ
- ・維持管理の話し合い

2

私たちがやりたいこと

- ・高齢者のコミュニティの場作り
- ・空き家数減

3

私たちがやるべきこと

- ・地域に住む高齢者に具体的なアンケート調査
- ・地主を説得(地主が買すのを拒んでいる場合)

《鍵となる3人》



アイデアが実現した時の未来の姿

『高齢者が元気な地域づくり』

やれることから実践宣言

まずは

高齢者への具体的なアンケート調査、それらの分析。

これから実践します！

審査員コメント

地代、地主に着目が面白い。調査結果がもうちょっと欲しかった。高齢者は具体的に何を？



やれることから実践宣言

まずは

初期費用と経営にかかる費用の概算を出し、採算が合うかを考える。

これから実践します！

審査員コメント

“場をユニバーサルにする”という発案が面白い。実体験に基づく発案がよかった。駄菓子という切り口もよかったです。ガチンコでサービスを展開しなくても良い。



アイデアを実現するために

1

私たちができること

- ・利用する空き店舗を決める
- ・改築費、資材購入費、空き店舗の使用代の概算
- ・売り出す商品、サービスの案を出す
- ・働いてくれるお年寄りを探す

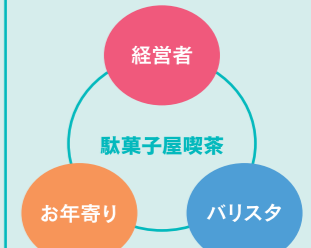
2

私たちがやりたいこと

- 「広い客層に対応し、頻繁に通いたくなるような駄菓子屋兼カフェをつくる」
- ・テイクアウトができて短い時間でも立ち寄れる
- ・窓ガラスが大きく中が見えやすい店内
- ・小さな子どもを連れてきたくなる(小さな遊び場もある)
- ・お年寄りも働くことで交流の場ができる

アイデアの実現に
一歩近づく

《鍵となる3人》



アイデアが実現した時の未来の姿

大牟田駅前が、学生、社会人、主婦、お年寄りなど様々な客層の憩いの場となり、帰ってくるのが楽しみになる場所になる。

大牟田市動物園 ズーフェス

集結!! 大牟田市の魅力!!

中央校区の概要

- 駅から少し離れている
- 周囲に何も無い(コンビニなど)
- バス停が近くにない
- 飲食店自体は何軒かある



○ 久留米大学 田橋 拓海 / 松田 直樹 / 堀尾 壮 / 大島 知 / 芝田 大樹

調査報告

- より自然な動物の姿を見ることが出来る
- 動物の負担を少なくする工夫がよくわかる
- 来園者数は年々増加中



大牟田市動物園の取り組み

環境エンリッチメント

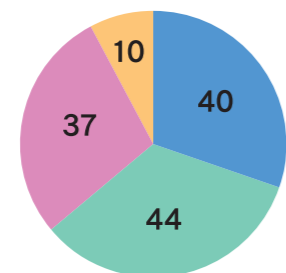
動物の正常な行動の多様性を引き出し、動物の福祉と健康を改善するために飼育環境に対して行われる工夫である。

ハズバンダリートレーニング

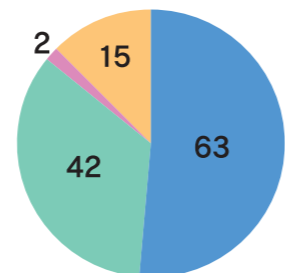
健康チェックや、動物の健康を保つケアを、動物に負担がかからない方法で行うトレーニングである。

意外と知られてない動物福祉

《 1年間の来園回数? 》



《 動物福祉の取り組み 》



調査から見た課題

- 動物福祉を来園者に伝えていこうと活動しているが、来園者は楽しいショーとしてしか認識していないため動物福祉が何なのか、この工夫はいったい何のためにされているのかわかっていない。

- リピーターが多いが、押し出しているはずのハズバンダリートレーニングや環境エンリッチメントについて興味・関心がない人や知らない人が多い。

そもそも何が問題なのか?

- 動物に対する工夫を説明する職員が1人、2人といった少人数なのに、それを見ている来園者は相当な人数がいること。
- そのため、話を聞いている人ひとりひとりの反応を見ることができないので来園者が工夫を理解しているかわからない。
- 環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニングについての説明を聞く人が多すぎて反応を見ることができない、話を聞く側・見る側がそもそも一つのショーとしての認識しかない。

1対1(少人数)で説明もしくは
考える機会を作ることが必要なのは?

ズーフェス



- [イベント班] 当日のミニゲーム・フェイスペイントなどのブースで活動
- [販売班] 当日出店する中で人手の少ないお店の手伝い
- [広報班] イベントのポスターを主に児童施設に配るなどのPR活動・当日のイベントマップの配布



良かった点

- 1 ミニゲームを通して大牟田市動物園が売りにしているところを知ってもらえた。(特に保護者に)
- 2 イベント当日に出した商品がイベント後もお店の商品として販売されている。
- 3 大牟田市動物園の公式ツイッターのフォロワーの増加

反省すべき点

- 1 イベント当日までの準備が圧倒的に足りなかった。
- 2 学生同士・学生と動物園スタッフのコミュニケーション不足
- 3 自分たちがスタッフとして参加している自覚の欠如

やれることから実践宣言

まずは

来年もズーフェスをするのかということや、これから動物園を絡めた地域づくり活動、これまで自分たちが行ってきた活動をどうするかを考えたいと思っています。

これから実践します!

審査員コメント



環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングそのものより、結果的に動物達が「イキイキしている」ことが大事なのでは? 「日本で一番動物達がイキイキしている動物園」ということを売りにできたら、そこから「なんでイキイキしているんだろう?」と関心を持つ人が増えるのでは?

街づくりとしての動物園の位置付けがあってもよい。評価をどう設けるのかが大切。ただ実施するのじゃなく、何を確かめ、どうしたら良いのか規定すること。

